



割れ窓理論とは

あまり聞き慣れない用語ですが、環境犯罪学上の理論です。この考え方はビジネス上でも活用されており、かのスティーブジョブスもアップル社に取り入れたとされています。この「割れ窓理論」とはアメリカの犯罪学者が発案した理論で、建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払わない象徴となり、やがては他の窓もまもなく全て壊されるという考え方です。

ニューヨークのジュリアーニという市長がこの理論を取り入れ、街の落書きや軽微な犯罪を徹底的に取り締り、犯罪発生率が80%減少するという結果が出ました。一般企業でも「ディズニーランド」はパーク内の些細な傷をおろそかにせず、ペンキの塗り直しや破損箇所の修繕を見つけ次第行うことで、ゲスト(お客様)のマナーも向上させることに成功しています。「日本電産」の永守社長は「会社の士気が落ちてしていると当然、工場は汚いですよ。事務所も汚い。電話の対応がいい加減。つまり5Sができていないのです」と発言されています。職場でも、挨拶、時間、期限、小さな嘘など、**社会人として基本的な事を見逃していると、それが割れ窓になってしまう可能性があります。**例えば、汚い作業環境では「これでいいや」と仕事の完成度に甘さがあっても許容してしまう空気が出てくるでしょうし、果ては不正なども発生する可能性があります。

基本を大切に。あいさつをきちんとする。デスクや書類などの整理整頓。社内掃除。時間や期限を守る。報連相の徹底。あなたの職場でも「割れ窓理論」を実践してください。



83歳殺害容疑で介護士逮捕。浴槽に沈める。

東京都中野区の老人ホームで今年8月、入居者の83歳の男性が浴室で溺死する事件があり警視庁捜査一課は男性入居者を浴槽に沈めて殺害したとして、同ホームの介護士25歳を逮捕した。容疑を認め「沈めて殺害するつもりだった。何度も布団を汚すのでいいかげんにしろと思った」と供述。

特養で心理的虐待3件(大阪豊中)

大阪府豊中市の特別養護老人ホームで、介護職員が入居者に「死ね」と暴言を吐くなどの心理的虐待があった事が判明した。市が実地指導に入って発覚し、改善指導した。高齢者虐待法が禁止する心理的虐待の3件は、いずれも本年に入って起きた。入居者に「あほ、ばか、死ね、忙しいねん」と暴言を吐いた。また、他の職員らが耳の遠い入居者に対し、ペーパータオルに『うるさい』と書いて渡したり、入居者を移乗する際に『汚いから頭からタオルをかけた』という。このほか複数の職員が大声で怒鳴る、トイレに行きたい入居者に『さっきも行ったでしょ』と言って放置するなどのケースも確認された。



豆知識



定規が手元に無い時、千円札があれば便利。千円札の横幅は15センチぴったり。三つ折りにすれば、5センチも測れます。ちなみに1円玉の直径は2センチです。ちょっとした豆知識でした。